

せり、悪魔も之を見て其五従屬を以て應戦し、終に明軍に克ちて之を幽閉せり、明神更に軍を遣はして之を征し、地獄に陥没せる原人を悪魔の中より救出せり、先きに魔軍の克つや、其五魔は各々五明に配して混一し、深く那落到沈みしが、原人は一天使に命じて此混淆せるものを浮出せしめ、明神は更に又他の天使をして、此等の混合體を以て世界を形成し、以て暗より明を離出せしめんとせり、天使乃ち茲に十天八地 (Zehn Himmel acht Erde) を作る云々と、(Flügel: Mani. seine Lehre und seine Schriften. s. 86-89) 此説く處を以て前記殘教に見ゆる世界創造説に對比すれば、容易に兩者の同一宗教の所説なるを認め得べく、而して他の諸宗教との間にかゝる著しき類似を求め得べきに非るを知るべし、蓋し經に謂ふ所の五明身とは前記驍健、常勝(?)○○、○大、智甲を指せども、之れ後に述ぶる所によりて知るが如く、清淨氣、妙風、明力、妙水、妙火の五者の別稱にして、フイリストに説ける地の五従屬及び、先きにスタイン氏が敦煌より、又た露西亞の探検隊が吐魯蕃より得たる畏吾兒語のマニ教の祈禱文なるクアスツアニフト (Khustuanift) 中に見ゆる五明とも、其記述の順序に至る迄相一致するものなるを知るべし、即ち

殘 經 Fihrist. Khustuanift.

一、清淨氣 1. Lufthauch. 1. Zephyr.

二、妙風 2. Wind. 2. Wind.

三、明力 3. Licht. 3. Light.

四、妙水 4. Wasser. 4. Water.